

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18H03587

研究課題名（和文）古代地中海世界における知の動態と文化的記憶

研究課題名（英文）Dynamics and Knowledge and Cultural Memory in the Ancient Mediterranean World

研究代表者

周藤 芳幸（Suto, Yoshiyuki）

名古屋大学・人文学研究科・教授

研究者番号：70252202

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 33,700,000円

研究成果の概要（和文）：なぜ古代地中海世界は、人類史において他に例を見ない独自の卓越した創造性を発揮することができたのか。この問題を解明するために、本研究では個人と集団のアイデンティティに関わる文化的記憶の動態に着目し、エジプトを含む古代地中海世界の歴史学、考古学、美術史学、哲学の諸分野でこれまで顕著な業績をあげてきた中堅・若手の研究者が国際的なネットワークを活用しつつ共同研究によってこの問題の解明に取り組んだ。その成果の一部については、『古代地中海世界と文化的記憶』（山川出版社2022年）として公開し、また2023年度末にはアテネで国際研究集会を開催することで、国際学界にも発信した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、エジプトを含めた古代地中海世界における知の動態に関して、ドイツを代表する文化学者であるアスマン夫妻が提唱した「文化的記憶」という概念を導入することにより、その比類のない創造性の根源に迫ることができた点において、高い学術的意義を有している。また、その研究成果に関しては、海外の出版社から英語の論文集を刊行し、研究期間の最終年度にはアテネで国際研究集会を開催しただけではなく、日本語でも論文集として出版したことに、社会的意義を認めることができる。

研究成果の概要（英文）：Why could the ancient Mediterranean world display a unique and outstanding creativity unparalleled in human history? To answer this question, this study focused on the dynamics of "cultural memory" concerning individual and collective identity. It sought to address this question through the collaborative research of scholars who have made outstanding achievements in the history, archaeology, art history, and philosophy of the ancient Mediterranean world, including Egypt, using international academic networks. The results of this research were partially published in Y. Suto (ed.), The Ancient Mediterranean World and Cultural Memory (Tokyo 2022), and also disseminated to the international academic community through a colloquium held in Athens at the end of FY2023.

研究分野：西洋古代史

キーワード：文化的記憶 地中海 知の動態 ネットワーク ギリシア エジプト ローマ

1. 研究開始当初の背景

ルネッサンスにその淵源をたどることのできる古代地中海文明の研究は、近代における専門分化の趨勢のなかで、哲学、文学、歴史学、美術史学などの個別ディシプリンに分割され、それぞれに閉じたかたちで研究の蓄積と進歩が進められてきた。そのため、叙事詩や弁論、陶器画など、まったく同じ作品が研究対象となっている場合でも、それぞれのディシプリンにおける最新の研究が必ずしも相互に参照されておらず、シンポジウムなどでもしばしば議論がかみ合わないことは周知の通りである。たしかに、近年ではコペンハーゲン・ポリス・センターによるポリス研究のプロジェクトのように、広がりのあるテーマのもとで領域横断的な共同研究を行うことにより、多面的かつニュアンスに富んだ古代地中海世界像を描き出そうとする試みも盛んになりつつある。しかし、そのような場合でも、地中海世界を「古典古代」と等置する伝統的なアカデミズムの参照枠のもと、この世界の重要な構成要素であり、かつ文化的にも経済的にもギリシア・ローマ世界と密接な関係にあったエジプトなどは視野の外に置かれることが一般的だった。

このような状況に対して、研究代表者は、長年にわたってエジプトの遺跡調査に関わってきたこともあり、早くからこの二つの世界をともに視野に含めつつ、それぞれの社会のあり方を規定していた知の動態、とりわけ各種の知の伝達手段の諸相を明らかにする作業に取り組んできた。具体的には、2006年に刊行した著書(周藤芳幸『古代ギリシア 地中海への展開』京都大学学術出版会)において、「メディアとコミュニケーション」に一章を割き、識字能力と口承性、アルファベットの創造過程、彫像制作や神殿建築を介したメッセージの発信と受容の問題などについて考察した。さらに2014年の著書(周藤芳幸『ナイル世界のヘレニズム エジプトとギリシアの遭遇』名古屋大学出版会)でも、エジプト在地社会の文化変容に関して、公的碑文やモニュメントを媒体とする知の伝達がいかに大きな役割を果たしていたのかという点について詳論したが、その過程では、このような問題をさらに大きな視野に立って解明していくためには、隣接分野の専門家の叢智を結集する組織的な共同研究が必要であることを痛感するようになった。こうして策定したのが、2015年度に採択された基盤研究(A)「古代地中海世界における知の伝達の諸形態」プロジェクト(以下、前プロジェクトと略)であり、そこでは西洋古代史研究者を中心に、エジプト学、考古学、美術史学、哲学の諸分野の研究者が研究会やシンポジウム、海外から招聘した研究者によるワークショップや講演会などを重ね、2018年9月にはJ. Barringer (Edinburgh)、J. Blok (Utrecht)、I. Malkin (Tel Aviv)、M. Meyer (Wien)、C. Morgan (Oxford)ら学界の最先端で活躍している研究者を招聘し、名古屋で大規模な国際研究集会を開催した。その成果は、その後2021年にオーストリアの Phoibos Verlag から公刊されている(Y. Suto (ed.), *Transmission and Organization of Knowledge in the Ancient Mediterranean World*, Wien 2021)。これらの成果を踏まえ、本研究では、「なぜ古代地中海世界は一千年以上にもわたって創造的な文明としての同一性を保つことができたのか」という問いのもと、異なるディシプリンの研究者による共同研究と国際的なアカデミアとのより密接な連携を通じて、後述するように、「文化的記憶」の概念を共通の参照枠としてこの世界の知の動態を探求することを企図するに至った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、「文化的記憶」という鍵概念を導入することによって古代地中海文明を支えていた知の動態を解明し、上述した前プロジェクトの研究成果に理論的な支柱を与えるとともに、これを組織化してさらに深化・発展させることにより、古代史研究に新たな研究領域を創造することである。

「文化的記憶」とは、ドイツのエジプト学者ヤン・アスマンとパートナーのアライダ・アスマンによって提唱された概念であり、彼らの著書(アライダ・アスマン『想起の空間 - 文化的記憶の形態と変遷』水声社2007年、ヤン・アスマン『エジプト人モーセ - ある記憶痕跡の解読』藤原書店2017年)を翻訳・解説している研究分担者の安川晴基によれば、「文化的記憶」とこれと対比される「コミュニケーション的記憶」の概要は以下の通りである(安川晴基「文化的記憶とは何か」、周藤芳幸編『古代地中海世界と文化的記憶』山川出版社、32-33頁による)。

「コミュニケーション的記憶」は、人々の日常生活における対面的なやりとりを通じて、自然発生的に形成される。「コミュニケーション的記憶」は、個人がその人生の枠組みのなかで、周りの人々と共有している直近の過去についての思い出である。その過去は、およそ80年から100年、すなわち、3世代から4世代前にまで遡る。個人の有機的な記憶を支えとする「コミュニケーション的記憶」は、定まった輪郭を持たず流動的であり、世代が交代すればその内容も移ろう。昨今、歴史学の一分野として隆盛をみているオーラル・ヒストリーが対象にしているのは、この記憶の次元である。

これに対して「文化的記憶」は、おのずと生成するのではなく、人為的に構築され、維持される。「文化的記憶」は以下の主要な点で特徴づけられる。(1) 特定の集団のアイデンティティに結びついていること。「文化的記憶」は、ある集団が自らの独自性と連続性の意識を依拠させる

ことができる共通の過去のイメージを運ぶ。(2)再構成されたものであること。「文化的記憶」によっていかなる過去のバージョンが提示されるかは、想起の共同体のその都度の現在の関心と必要によって左右される。(3)メディアによって形づくられていること。これが「コミュニケーション的記憶」と「文化的記憶」を区別する最初の決定的な特徴である。種々のメディア(声、文字、図像、オブジェ、身体、音楽、建造物、場所、風景など)によって客体化され、コード化されていなければ、共通の過去についての知識を固定し、保持し、伝承することはできない。(4)組織化されていること。すなわち、「文化的記憶」は諸々の制度(図書館やアーカイヴでの保管、カノンの集成など)によって伝承の経路が確保されており、それを職掌とする人々(呪術師・歌びと・聖職者・学者など)によって管理され、儀礼での上演やテキスト解釈などの実践を通じて繰り返し活性化される。(5)拘束力があること。「文化的記憶」は、何らかの価値のパースペクティブによって構造を与えられており、集団にとって規範的な意味を産出する。(6)再帰的であること。「文化的記憶」は、その担い手である集団の生活世界、集団の自己像、さらには自らを解釈する。

このような「文化的記憶」の定義からも、この概念が本研究で扱われるエジプト学、考古学、美術史学、哲学の個別の研究成果を統合し、そこから新たな知見を生み出すという目的に照らしてきわめて有益であることは明らかであろう。

3. 研究の方法

本研究では、エジプトを含めた古代地中海世界が後世に残した歴史書や弁論などの著作、碑文をはじめとする出土文字史料、奉納レリーフや彫像のような作品、物質文化に関わる考古学的な遺物などを知の伝達のメディアとして位置づけ、それらがどのように相互に作用しあうことによって「文化的記憶」の数々が創造されたのかという問題を、専門分野だけではなくキャリア、年齢、性別、出身大学、所属機関等を異にしながらも、古代地中海世界への関心によって結ばれた12名の研究者が、文化理論の研究者1名とともに共同研究を行った。具体的には、研究期間の初年度(2018年度)と最終年度(当初計画では2022年度、ただしコロナ禍による研究の遅延から2023年度に繰り越した)に研究の集約点となる国際研究集会を開催し、その間に欧米からの研究者の招聘講演会の開催、「文化的記憶」とその媒体をめぐる日本西洋史学会での小シンポジウムの主催(2021年度、2023年度)、研究成果の出版(2022年度)などの機会を利用して各自の研究の進展を確認しながら計画を進めた。なお、初年度と次年度には本研究の基礎となるデータを収集するためのエジプト現地調査を行うこともできたが、2020年度からはコロナ禍のために海外渡航が困難となった結果、当初計画の研究期間中にはついに再開することができなかった。このような事情から、研究会はもちろんのこと、成果の出版・国際研究集会の開催などについての検討はオンラインで行うことことを余儀なくされた。とくに英語による論文集の出版に際しては、我が国よりも厳しいロックダウンが課された地域の研究者が研究室や図書館等にアクセスできなくなり、寄稿を断念するという事態も生じた。そのような状況にもかかわらず、当初計画通り最終年度にアテネで総括のための国際研究集会を一年遅れで開催することができたのは、ひとえに研究分担者、研究協力者、研究補助者の献身的な尽力の賜である。

4. 研究成果

研究成果については、研究代表者と分担者それぞれが個別に成果を公刊してきており、最終年度に行った国際研究集会のとりまとめ作業はこれからであるが、ここではまず本研究のもっとも大きくかつまとまった成果である周藤芳幸編『古代地中海世界と文化的記憶』(山川出版社2022年)から、研究代表者と研究分担者の論文の概要を報告する。

本書の序章では、上記のように本書の通奏低音となる「文化的記憶」をめぐる問題系がどのような近年の学問的潮流から浮上してきたものであるのかが、安川晴基によって研究史を踏まえて浮き彫りにされる。続く第一部は、古代エジプトにおける神々と王たちの「文化的記憶」が、モニュメントや装飾、神殿に保管された文書などによってどのように構築・継承され、さらにはギリシアやローマの文化との接触を通じて変容していったのかを論じる諸論文から構成されているが、このうち田澤恵子は、宗教的な文書の作成や保存の場であったと推測される「生命の家」と、そのときどきの王が自らの王権の正統性を示すために作成させた王命表を検討対象として、これらが古代エジプトにおいて「あるべき過去」としての「文化的記憶」の形成に果たした役割を明らかにする。とりわけ、古代エジプトではアーカイヴ化された文書だけではなく、さまざまなモノが過去の記憶を想起させる重要な媒体として機能していたとする田澤の指摘は重要である。なお、古代エジプトではその長い歴史を通じて数多くの王の彫像が制作されているが、中野智章はプトレマイオス朝後期の王像に施された文様を解釈することで、王権観の揺らぎが文様の変化と新たな創造をもたらしたことを説得的に論じている。そこからは、田澤も指摘するように、古代エジプトにおいて「文化的記憶」が文字テキスト以外の多様な表象によって支えられていた状況を知ることができる。

このような古代エジプト独自の「文化的記憶」のあり方がその後どのように継承されたのかという点をめぐっては、高橋亮介がテプテュニスの神殿図書室とそこから発掘されたパピルス文書群の内容の分析から、ローマ帝政期には神殿の社会経済的重要性が相対的に低下したものの、神官たちが依然として在地エリートとして伝統的な祭儀と組織を維持していたことを明らかにした。一方で、大林(山花)京子は、「文化的記憶」の重要な媒体であったファイアンス製品が、

ローマ帝政期になると日常品にも使われるようになった結果、本来それが伴っていた「文化的記憶」を失ってしまったことを指摘している。

これに対して、第二部の諸論文は、古代ギリシアとフェニキアにおいて、人々が各種のメディアを通じて過去を想起し、「文化的記憶」を通じて集合的なアイデンティティを構築していく過程を多角的に素描している。周藤芳幸は、古典期アテネにおける民主政のアイコンであった僭主殺害者像を再検討し、関連する古典史料や図像資料を分析することで、このモニュメントが、その独特の所作、喚起する言説、これをとりまく空間というコンテクストを通じて、いかにアテネ市民たちに共有されていた民主政の創始をめぐる記憶の想起に貢献していたのかを解明した。また、長田年弘は、女性や子ども、老人が聖域に避難したにもかかわらず悲劇的な運命をたどるという共通のプロットをもつ神話を描いた陶器画を検討し、それらが単なる神話の図像表現にとどまるものではなく、見る者に史実を想起させるメディアに他ならなかったことを示した。

集合的記憶がそのときどきに想起され声によって言語化される過程では、これに関わる人々の価値観や置かれた状況が大きな影響を与えることは、容易に想像されるところである。佐藤昇は、そのような「記憶のフロー化」の問題をとりあげ、古典期アテネの民会演説と法廷弁論のそれぞれにおいて、聴衆の引き起こした喧噪の記憶がどのように想起されているのかを緻密に分析し、民会の場ではしばしば否定的に評価される喧噪が法廷では肯定的に引用される現象に説得的な解釈を与えた。アテネの若者たちが過去の出来事についての「文化的記憶」を継承する貴重な機会となったのが、兵役、すなわちエフェベアである。師尾晶子は、アテネにおける前4世紀のエフェベアに関する奉納碑文に刻まれた文言を手掛かりとして、前5世紀のペルシア戦争の記憶が、古典期よりもむしろヘレニズム時代以降に強化されていった事実の背景を解明している。

第三部で芳賀京子が分析するのは、広大なローマ帝国の各地に建立され、ローマによる支配を体現していた皇帝とその一族の肖像彫刻である。そのような皇帝のカノン化されたイメージは、実際にはどのように属州各地にまで伝えられていたのか。この問題に対して、芳賀は各地から出土しているアウグストゥス帝の肖像サンプルの詳細な三次元計測により、皇帝イメージの伝達が皇帝側から諸都市に授与された公式の石膏模型を通じて行われていたことを立証し、皇帝の「文化的記憶」の普及過程を復元して見せた。

以上、本研究の研究代表者及び研究分担者による論考が光をあてることができたのは、古代地中海世界に生じた「文化的記憶」をめぐる諸現象のうちのごく一部に過ぎない。しかし、同時にそれらは、これまでの膨大な研究の蓄積にもかかわらず、「文化的記憶」のような新たな視点から見つめ直したときに、この世界がまだまだ多くの知的探求の余地を残していることを物語っている。この点に関して注目すべきは、上述したコペンハーゲン・ポリス・センターのプロジェクトに続いて、2000年代に入って社会ネットワーク論によるアプローチがにわかに擡頭してきたことであろう。なかでも、本プロジェクトでも2022年に講演をいただいたI. MalkinのSmall Greek World論は、ギリシア世界がローマやエジプトとは対照的に中心を持たないまま一つの世界を形成することができた理由を、社会ネットワーク論を駆使して明らかにすることで名高い。

しかし、この研究についても、不満を感じないわけではない。上述のように、古代地中海世界のさまざまな知識は各種の文書で伝達されただけでなく、建築物、記念碑、図像や彫像といった視覚的な媒体によっても継承されるとともに、神話と結びついた祭儀や儀礼などによって繰り返し強化され、神殿や文書館などで組織的に保存されていた。しかし、さまざまな史料からそれらのあいだに成り立っていたネットワークの存在を指摘するのは比較的容易であるが、より重要なことは、そのネットワークを生み出して駆動させたエージェンシー、これは芸術人類学におけるジェルのエージェンシー論においてもいわゆるアクター・ネットワーク論でも強調されているように、ヒトであってもモノであっても良いわけであるが、そのエージェンシーの動態、何よりもその移動のあり方の特徴を浮き彫りにすることであろう。近年の民族誌研究の成果からは、エージェンシーの移動が斉一的なネットワークを生み出す可能性を持っていると同時に、他者性を喚起して、コミュニティを分断する境界を作り出す、あるいは、いわゆるコンタクトゾーン、すなわち非対称的な権力関係のもとで異なる文化が出会い、衝突し、格闘する社会空間を現出させることも指摘されている。この指摘は、地中海世界とオリエント世界の関係を考える際にも、きわめて示唆的である。

本研究の総括としてギリシア国立研究財団の歴史研究所で行った研究集会のタイトルを「現在のなかの過去：古代地中海世界(とその周辺)における文化的記憶とそのエージェンシー」(The Past in the Present: Cultural Memory and its Agencies in the Ancient Mediterranean World)と題したのは、まさに本研究の到達点である上記の認識によっている。本研究の後継プロジェクトである科研費基盤研究(A)「古代ユーラシア世界における知のネットワークとそのエージェンシー」では、古代アッシリアやペルシアを専門とする研究者と連携することにより、国際的視野のもとでさらに研究の発展をはかる所存である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計85件（うち査読付論文 42件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 19件）

1. 著者名 MOROO Aki ko	4. 巻 9
2. 論文標題 KEEPING THE SACRED LANDSCAPE BEAUTIFUL AND ELABORATE: MAINTENANCE OF SANCTUARIES IN ANCIENT GREECE	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 JOURNAL OF ANCIENT HISTORY AND ARCHAEOLOGY	6. 最初と最後の頁 105-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14795/j.v9i1.713	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 周藤 芳幸	4. 巻 2
2. 論文標題 ミケーネ宮殿社会からポリス社会へ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 岩波講座世界歴史02『古代西アジアとギリシア』	6. 最初と最後の頁 253-269
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 周藤 芳幸	4. 巻 132
2. 論文標題 回顧と展望 ヨーロッパ古代 ギリシア	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁 314-321
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 周藤 芳幸	4. 巻 1029
2. 論文標題 古代アレクサンドリア図書館再考 -蔵書から図書館へ-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 39-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshiyuki SUTO	4. 巻 -
2. 論文標題 Pausanias on Egyptian Monuments and History	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Star Who Appears in Thebes: Studies in Honour of Jiro Kondo	6. 最初と最後の頁 451-463
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 周藤 芳幸	4. 巻 -
2. 論文標題 僭主殺害者像とアテナイ民主政の文化的記憶	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 古代地中海世界と文化的記憶	6. 最初と最後の頁 178 - 218
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 師尾 晶子	4. 巻 84
2. 論文標題 エーゲ海を往来したフェニキア人：シドンの商人の活動を中心に (古代地中海世界における人々の移動とネットワーク(2)：Identity, Ethnicity, Acculturation)	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 史苑	6. 最初と最後の頁 109 ~ 128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14992/0002000377	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 MOROO Aki ko	4. 巻 9
2. 論文標題 KEEPING THE SACRED LANDSCAPE BEAUTIFUL AND ELABORATE: MAINTENANCE OF SANCTUARIES IN ANCIENT GREECE	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 JOURNAL OF ANCIENT HISTORY AND ARCHAEOLOGY	6. 最初と最後の頁 105 - 110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14795/j.v9i1.713	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ryosuke TAKAHASHI	4. 巻 4
2. 論文標題 The Location and Size of Prektis in the Hermopolite nome	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Pylon	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ryosuke TAKAHASHI	4. 巻 -
2. 論文標題 The Architectural and Epigraphical Survey in the New Minya Quarry	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Akoris 2022: Preliminary Report	6. 最初と最後の頁 20-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Noboru SATO	4. 巻 5
2. 論文標題 Hellenistic Didyma and the Milesian Past	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Japan Studies in Classical Antiquity	6. 最初と最後の頁 78 - 98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 芳賀京子	4. 巻 -
2. 論文標題 ローマ帝国における皇帝イメージの検閲・伝達・記憶	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『古代地中海世界と文化的記憶』	6. 最初と最後の頁 366-392
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中野智章	4. 巻 -
2. 論文標題 ある古代エジプト王像に彫られた文様の記憶	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『古代地中海世界と文化的記憶』	6. 最初と最後の頁 87-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamahana Kyoko	4. 巻 130
2. 論文標題 Historical consideration of Ancient Egyptian faience through a craftsman's point of view	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of the Ceramic Society of Japan	6. 最初と最後の頁 512 ~ 518
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2109/jcersj2.22062	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山花京子	4. 巻 24.4
2. 論文標題 古代エジプトのファイアンス、白華・浸灰・塗付技法の復元実験から得られた各技法の特徴に関する検討	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 西アジア考古学	6. 最初と最後の頁 47-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山花京子	4. 巻 -
2. 論文標題 ファイアンス製品の文化的記憶とその変容	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『古代地中海世界と文化的記憶』	6. 最初と最後の頁 138-175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中創	4. 巻 -
2. 論文標題 アウグストゥスのゆくえ ローマ帝国統治の模索	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『君主号と歴史世界 (史学会シンポジウム叢書)』	6. 最初と最後の頁 149-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田澤 恵子	4. 巻 -
2. 論文標題 古代エジプト王朝時代における「あるべき過去」とその媒体	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『古代地中海世界と文化的記憶』	6. 最初と最後の頁 67-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 周藤芳幸	4. 巻 39
2. 論文標題 ヘレニズム時代のアコリスにおける都市生活	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文化遺産の世界	6. 最初と最後の頁 20-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshiyuki Suto	4. 巻 -
2. 論文標題 Legal ethnic designations in Akoris in the second century BCE	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Preliminary Report Akoris 2021	6. 最初と最後の頁 14-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 周藤芳幸	4. 巻 1029
2. 論文標題 古代アレクサンドリア図書館再考 -蔵書から図書館へ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 39-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Toshihiro Osada	4. 巻 -
2. 論文標題 Intervention von Zeus. Ein Beitrag zur Deutungsfrage des Westgiebels vom Parthenon	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Akten des 18. Osterreichischen Archäologentages am Institut für Antike der Universität Graz	6. 最初と最後の頁 193-199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤昇	4. 巻 69
2. 論文標題 体育競技への眼差しと軍事 - 変わりゆくギリシア世界の中で	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 西洋古典学研究	6. 最初と最後の頁 84-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋亮介	4. 巻 444
2. 論文標題 ナイル川のニンフ イシドラの哀悼文を読む	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地中海学会月報	6. 最初と最後の頁 5-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋亮介	4. 巻 39
2. 論文標題 グラフィティが語るヘレニズム時代の採石活動	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文化遺産の世界	6. 最初と最後の頁 26-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中野智章	4. 巻 951
2. 論文標題 棺とミイラから古代エジプト文明の謎に迫る	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 學士會会報	6. 最初と最後の頁 27-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kyoko Yamahana	4. 巻 4
2. 論文標題 The first papyrus restoration project in Japan: Educating students to become papyrus conservators	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 CIPEG Journal: Ancient Egyptian & Sudanese Collections and Museums	6. 最初と最後の頁 67-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11588/cipeg.2020.4.85799	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Toshihiro OSADA	4. 巻 1
2. 論文標題 Die Darstellung der Asylie bei Kindern, Alten und Frauen in der attischen Kunst aus dem 6. und 5. Jahrhundert v. Chr.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Akten des 17. Osterreichischen Archaologentages	6. 最初と最後の頁 389-395
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Toshihiro OSADA	4. 巻 13
2. 論文標題 Servant of the Goddess. The Gender and the Ritual Role of Figure E35 on the Parthenon Frieze	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Gedenkschrift für Wolfgang Wohlmayr. ArchaeoPlus. Schriften zur Archäologie und Archäometrie der Paris Lodron Universität Salzburg	6. 最初と最後の頁 307-315
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshiyuki Suto, Ryosuke Takahashi	4. 巻 -
2. 論文標題 Epigraphical Survey in the New Minya Quarry	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Akoris 2019: Preliminary Report	6. 最初と最後の頁 20-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KyokoYAMAHANA, Yasunobu AKIYAMA	4. 巻 32
2. 論文標題 Ancient Egyptian Sulfur Brads	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BEADS: Journal of the Society of Bead Researchers	6. 最初と最後の頁 15-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山花京子 (C A) ・阿部善也 ・村串まどか	4. 巻 65
2. 論文標題 東海大学所蔵アンデス・コレクションのガラス玉の形態および理化学的分析と製作技法考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 G L A S S	6. 最初と最後の頁 3-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kyoko Sengoku-Haga	4. 巻 8
2. 論文標題 Rinvenimenti scultorei dalla 'Villa di Augusto' (2004-2014)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Amenitas	6. 最初と最後の頁 95-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 芳賀京子	4. 巻 34
2. 論文標題 古代ギリシアの聖域の記述と信仰の記憶	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文化交流研究	6. 最初と最後の頁 25-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安川晴基	4. 巻 増刊12
2. 論文標題 自国の負の過去にどう向き合うか：ドイツの「想起の文化」と空間実践	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 臨床心理学	6. 最初と最後の頁 158-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 周藤芳幸	4. 巻 68
2. 論文標題 アナクシラス問題再考 -パウサニアスのメッセニア戦争とオリュンピア期をめぐって-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 西洋古典学研究	6. 最初と最後の頁 13-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 SUTO, Yoshiyuki	4. 巻 1
2. 論文標題 Akoris in a Diachronic Perspectove	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Preliminary Report Akoris 2018	6. 最初と最後の頁 3-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 FUJII Takashi	4. 巻 308
2. 論文標題 B. Edelman-Singer, Koina und Concilia: Genese, Organisation und sozioökonomische Funktion der Provinziallandtage im römischen Reich(2015)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Historische Zeitschrift	6. 最初と最後の頁 461-462
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 NAKANO Tomoaki	4. 巻 12
2. 論文標題 The History of the Egyptian Collection at the Kyoto University Museum	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 CIPEG e-News	6. 最初と最後の頁 3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 TAKAHASHI Ryosuke	4. 巻 615
2. 論文標題 Heron son of Herakleides and his family	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 TM Archives ID	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長田年弘	4. 巻 35
2. 論文標題 パルテノン・フリーズ東面聖衣奉納場面に関する小論	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 藝叢	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 OSADA Toshihiro	4. 巻 134
2. 論文標題 Rethinking the Parthenon Frieze as a Votive List of Dedicator, Recipient, and Beneficiary	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Jahrbuch des Deutschen Archäologischen Instituts	6. 最初と最後の頁 1-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中創	4. 巻 48
2. 論文標題 教会史の系譜 - - ローマ帝政後期における歴史叙述の伝統と変容	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 西洋史研究 新輯	6. 最初と最後の頁 150-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山花京子	4. 巻 59
2. 論文標題 古代エジプトの青く光輝くもの ファイアンスの魅力	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ORIENTE	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tsubasa Sakamoto(筆頭者・CA), Kyoko Yamahana	4. 巻 23
2. 論文標題 Nubian Materials in the Collection of Tokai University, Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Sudan & Nubia	6. 最初と最後の頁 169-171
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kanayama Yasuhira Y.	4. 巻 -
2. 論文標題 Plato's Wax Tablet	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Soul and Mind in Greek Thought	6. 最初と最後の頁 81~109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-319-78547-9_5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金山弥平	4. 巻 2
2. 論文標題 Love and Procreation in Plato's Symposium 206b-207a	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Journal of Humanities, Nagoya University	6. 最初と最後の頁 187-203
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshiyuki Suto, Ryosuke Takahashi	4. 巻 -
2. 論文標題 Investigations in the Ptolemaic Quarry at New Minya	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Preliminary Report Akoris 2017	6. 最初と最後の頁 19-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋亮介	4. 巻 54-2
2. 論文標題 エジプト東部砂漠のローマ軍と「蛮族」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 軍事史学	6. 最初と最後の頁 59-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 芳賀京子	4. 巻 32
2. 論文標題 古代ギリシア・ローマ美術における創造と複製	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文化交流研究	6. 最初と最後の頁 9-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計101件 (うち招待講演 28件 / うち国際学会 27件)

1. 発表者名 Akiko Moroo
2. 発表標題 Troezenian Memories on the Greco-Persian Wars: Revisiting the Themistocles Decree through the Troezenian Perspective
3. 学会等名 Fifth Euro-Japanese Colloquium on the Ancient Mediterranean World (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Noboru Sato
2. 発表標題 Demosthenes' Deliberative Speeches and Struggle for Memory
3. 学会等名 Fifth Euro-Japanese Colloquium on the Ancient Mediterranean World (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 周藤芳幸
2. 発表標題 西洋古典学とデジタルヒューマニティーズ
3. 学会等名 日本西洋史学会第73回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yoshiyuki Suto
2. 発表標題 Cities, Villages, and Countryside in Egypt under the Ptolemies
3. 学会等名 Cities and Urbanization in West Asia and Egypt (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 周藤芳幸
2. 発表標題 古代ギリシアの宗教文化遺産と文化的記憶 パウサニアスの『ギリシア案内記』を中心に
3. 学会等名 宗教文化遺産学の挑戦
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yoshiyuki Suto
2. 発表標題 Priestly Decrees as Agency of Cultural Memory in Ptolemaic Egypt
3. 学会等名 Fifth Euro-Japanese Colloquium on the Ancient Mediterranean World
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 周藤芳幸
2. 発表標題 文化的テキストとしての僭主殺害者像：画像、伝承、過去の創造
3. 学会等名 古代ギリシア文化研究所年次総会・研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 周藤 芳幸
2. 発表標題 フォーラム「西洋古典学とデジタル・ヒューマニティーズ」趣旨説明
3. 学会等名 西洋古典学研究（招待講演）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 師尾 晶子
2. 発表標題 トロバイオンからトロバイオンへ：ペルシア戦争記念モニュメントの建立と記憶の強制／矯正／共生
3. 学会等名 2023年度第2回パルテノン科研研究会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高橋亮介 ， 内田杉彦 ， 小川拓郎
2. 発表標題 2022年度ニューメニア採石場調査
3. 学会等名 アコリス考古学プロジェクト2023
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高橋亮介
2. 発表標題 アンティノポリスの建設とエジプト社会
3. 学会等名 第73回日本西洋史学会大会小シンポジウム1「移動するエージェンシー：古代オリエント・地中海世界における諸相」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Noboru SATO
2. 発表標題 Demosthenes' Deliberative Speeches and Struggle for Memory
3. 学会等名 The Fifth Euro-Japanese Colloquium on the Ancient Mediterranean World (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 藤井崇
2. 発表標題 ローマ帝国の夢の世界：アルテミドロス『夢判断の書』とその同時代的文脈
3. 学会等名 西洋古典学フォーラム「夢」日本西洋古典学会第72回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 芳賀京子
2. 発表標題 古代彫刻の「人生」の記憶 古代における修復と改変
3. 学会等名 シンポジウム「古代」の記憶の回復をめぐる
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 佐藤昇
2. 発表標題 古代地中海世界における知の動態と「文化的記憶」：コメント
3. 学会等名 第71回日本西洋史学会大会小シンポジウム I: 古代地中海世界における知の動態と「文化的記憶」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kyoko Haga
2. 発表標題 Keener than Connoisseurs' Eyes: Analysis and Experience of Ancient Art through Virtual Reality (VR)
3. 学会等名 JADH 2021 (The 11th Conference of Japanese Association for Digital Humanities "Digital Humanities and COVID-19") (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 芳賀京子
2. 発表標題 西洋古代彫刻の修復 -大理石像とブロンズ像-
3. 学会等名 第 74 回美術史学会全国大会シンポジウム「修理と美術史学 残すもの、除くもの、補うもの」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Keiko Tazawa
2. 発表標題 Re-examination of the Donation Stele for Ahmose-Nefertari as a God's Wife of Amun
3. 学会等名 日本オリエント学会第 63 回年次大会(企画セッション1 Women and Ritual in Cult and Law of the Ancient Near East) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田澤恵子
2. 発表標題 古代エジプトのダムナティオ・メモリアエ-『記憶史』のまなざしで視る王名表-
3. 学会等名 第71回日本西洋史学会小シンポジウムI「古代地中海世界における知の動態と「文化的記憶」」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋亮介
2. 発表標題 ローマ帝国とギリシアの家族：ローマ期小アジアの碑文研究から
3. 学会等名 古代史研究会特別研究集会「古代ギリシア史研究の現在地 古典期・ヘレニズム期・帝政期の対話」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤井崇
2. 発表標題 ローマの戦争とその記憶：ギリシア人の視点から
3. 学会等名 日本西洋史学会第71回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山花京子
2. 発表標題 古代エジプトファイアンス製作技法の解明 浸灰技法
3. 学会等名 日本西アジア考古学会 第26回総会・大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山花京子
2. 発表標題 古代エジプトのファイアンスを3種類の技法で復元する 実験報告と考察
3. 学会等名 日本ガラス工芸学会 2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋亮介
2. 発表標題 ローマ期エジプトにおける家族とジェンダーをめぐる諸問題：近年の動向と課題、血統意識の形成をめぐって
3. 学会等名 上智大学史学会大70回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 周藤芳幸、高橋亮介
2. 発表標題 2019年度ニュー・メニア採石場調査
3. 学会等名 アクリス考古学プロジェクト2020公開シンポジウム：エジプト領域部研究の新展開
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田澤恵子
2. 発表標題 東地中海地域における女神信仰の系譜研究
3. 学会等名 古代ジェンダー研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 周藤芳幸
2. 発表標題 アナクシラス問題再考 - 前古典期ギリシアのオリュンピア期と暦年代をめぐって
3. 学会等名 日本西洋古典学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SUTO, Yoshiyuki
2. 発表標題 The Rise and Fall of a Hinterland: Akoris in a Diachronic Perspective
3. 学会等名 Terra Incognita: Archaeological Fieldwork in Asyut and Middle Egypt (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 FUJII Takashi
2. 発表標題 Hellenistic and Imperial Cyprus: What Was It Like to Be Civic?
3. 学会等名 Ancient History Seminar, Faculty of Classics, University of Cambridge (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 FUJII Takashi
2. 発表標題 Greek Contribution to Roman Imperialism: The Aphrodisian Case in Contexts.
3. 学会等名 Aphrodisias Workshop: War and Peace in Roman Aphrodisias, 50 BC-AD 250. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤昇
2. 発表標題 古典期アテナイにおける商人たちの交流
3. 学会等名 第43回地中海学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中創
2. 発表標題 ヘレニズムとキリスト教の狭間で - - カルケドン会議議事録から見るローマ帝政後期の都市
3. 学会等名 Peking University Humanities Forum “The Roman Empire: East and West”
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 師尾晶子
2. 発表標題 小シンポジウム「古代地中海世界における人々の移動とネットワーク」コメンテータ
3. 学会等名 第69回日本西洋史学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshiyuki Suto
2. 発表標題 Social Resilience and Organization of Knowledge in Ptolemaic Egypt
3. 学会等名 Fourth Euro-Japanese Colloquium on the Ancient Mediterranean World (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 周藤芳幸
2. 発表標題 プトレマイオス朝エジプト史研究と考古学
3. 学会等名 第17回歴史家協会大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Noboru Sato
2. 発表標題 Oral Transmission of Knowledge and Suppressing Audience's thorybos in Classical Athens
3. 学会等名 Fourth Euro-Japanese Colloquium on the Ancient Mediterranean World（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akiko Moroo
2. 発表標題 Development and Transformation of Local Myth in Lycia
3. 学会等名 Fourth Euro-Japanese Colloquium on the Ancient Mediterranean World（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yasuhira Yahei Kanayama
2. 発表標題 What the Use of Writing Tablets Brought About in Greece
3. 学会等名 Fourth Euro-Japanese Colloquium on the Ancient Mediterranean World（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kyoko Sengoku-Haga
2. 発表標題 Diffusion of Imperial Portraits in the Roman Empire
3. 学会等名 Fourth Euro-Japanese Colloquium on the Ancient Mediterranean World (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中野智章
2. 発表標題 エジプト第1王朝のサッカラ墓地における付属墓について
3. 学会等名 日本オリエント学会第60回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tomoaki Nakano
2. 発表標題 Between Old and New: A Marker of Kingship on the Statues of Ptolemaic Kings
3. 学会等名 Fourth Euro-Japanese Colloquium on the Ancient Mediterranean World (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hajime Tanaka
2. 発表標題 Transmission of Council Documents
3. 学会等名 Fourth Euro-Japanese Colloquium on the Ancient Mediterranean World (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Keiko Tazawa
2. 発表標題 Water in the Ancient Egyptian Myths
3. 学会等名 Internatipnal Conference on Comparative Mythology (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計34件

1. 著者名 大黒俊二, 林佳世子, 藤井純夫, 柴田大輔, 佐藤昇, 三宅裕, 馬場匡浩, 唐橋文, 河合望, 山田重郎, 長谷川修一, 周藤芳幸, 栗原麻子, 阿部拓児, 長谷川岳男, 上野慎也, 山花京子, 三津間康幸, 伊藤雅之, 近藤二郎, 橋場弦	4. 発行年 2023年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 324
3. 書名 岩波講座 世界歴史 第2巻 古代西アジアとギリシア ~前1世紀	

1. 著者名 周藤芳幸(編著者) 師尾晶子、安川晴基、田澤恵子、中野智章、高橋亮介、山花京子、長田年弘、佐藤昇、芳賀京子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 448
3. 書名 古代地中海世界と文化的記憶	

1. 著者名 Yoshiyuki Sutoi (ed.), Josine Blok, Andronike K. Makres, Yasuhira Yahei Kanayama, Noboru Sato, Kyoko Sengoku-Haga, Kostas Vlassopoulos, Lilian Karali, Catherine Morgan, Judith M. Barringer, Marion Meyer, Elizabeth A. Meyer, Irad Malkin, Mariko Sakurai, P. J. Rhodes, J. E. Lendon, Akiko Moroo, Hajime Tanaka	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Phoibos Verlag	5. 総ページ数 295
3. 書名 Transmission and Organization of Knowledge in the Ancient Mediterranean World	

1. 著者名 高橋亮介, 田中創, 藤井崇, 三津間康幸, 池口守, 春田晴郎, 南雲泰輔, 大谷哲, 井上文則, 富井真, 中川亜紀, 桑山由文, 佐々木健	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 306
3. 書名 ローマ帝国と西アジア 前3-7世紀	

1. 著者名 Ryosuke Takahashi	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Univ of London Pr	5. 総ページ数 195
3. 書名 The Ties That Bind: the Economic Relationships of Twelve Tebtunis Families in Roman Egypt	

1. 著者名 田中創	4. 発行年 2020年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 254
3. 書名 ローマ史再考：なぜ「首都」コンスタンティノープルが生まれたのか	

1. 著者名 パウサニアス、周藤 芳幸	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 328
3. 書名 ギリシア案内記 2	

1. 著者名 ヤン・アスマン 安川晴基訳	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 270
3. 書名 想起の文化：忘却から対話へ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

古代地中海世界研究ネットワーク https://jnans.platoo.jp
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	金山 弥平 (Kanayama Yahei) (00192542)	名古屋大学・人文学研究科・名誉教授 (13901)	
研究分担者	長田 年弘 (Osada Toshihiro) (10294472)	筑波大学・芸術系・名誉教授 (12102)	
研究分担者	師尾 晶子 (Moroo Akiko) (10296329)	千葉商科大学・商経学部・教授 (32504)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高橋 亮介 (Takahashi Ryosuke) (10708647)	東京都立大学・人文科学研究科・准教授 (22604)	
研究分担者	田澤 恵子 (Tazawa Keiko) (30598587)	(財)古代オリエント博物館・研究部・部長 (72601)	
研究分担者	佐藤 昇 (Sato Noboru) (50548667)	神戸大学・人文学研究科・教授 (14501)	
研究分担者	大林 京子(山花京子) (Tamahana Kyoko) (50594157)	東海大学・文化社会学部・教授 (32644)	
研究分担者	田中 創 (Tanaka Hajime) (50647906)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授 (12601)	
研究分担者	藤井 崇 (Fujii Takashi) (50708683)	京都大学・文学研究科・准教授 (14301)	
研究分担者	安川 晴基 (Yasukawa Haruki) (60581139)	名古屋大学・人文学研究科・准教授 (13901)	
研究分担者	芳賀 京子 (Haga Kyoko) (80421840)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授 (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中野 智章 (Nakano Tomoaki) (90469627)	中部大学・国際関係学部・教授 (33910)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 The Past in the Present: Cultural Memory and its Agencies in the Ancient Mediterranean World	開催年 2024年～2024年
国際研究集会 Fourth Euro-Japanese Colloquium on the Ancient Mediterranean World	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Fifth Euro-Japanese Colloquium on the Ancient Mediterranean World	開催年 2024年～2024年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
ギリシャ	National Hellenic Research Foundation		